

後志ハブ観光について学ぼう

講師：小樽観光協会 専務理事 赤間 元 氏

こんにちは赤間と言います。どうぞ、宜しくお願いいたします。雪が解けてしまいましたね。この前だいぶ降ったと聞いておりましたら、昨日聞いたのですが天狗山に行きたいというお客さんがいて、アメリカ人だったらしいのですが雪がなくなったといったら、「行くのを辞めた。」つまり暖かいところから来た方、南部の方でしょうね。雪そのものが観光資源だと言う事が分って凄いものだな〜と、ちょっと思いました。

それから、余談ですけれどもシャコ祭りというモノをやりまして二日間で二万人ぐらい来ました。まだ、やっています色んなお店でシャコの色んなメニューを出していて、今日来ている小川原氏なんかは 300 匹程焼いたというそんな話を聞いております。お蕎麦屋さんでシャコを焼いたのが売れたという話を聞いております。漁協さんに結局何匹売れたの？と聞いたら三万匹だそうです。凄いでしょ！こんなマイナーな食べ物であんな物って言っていた事でこれだけの人を集められるんだなあ〜何のことはない、漁師の女将さんたちが鍋に色んな物突っ込んでシャコ鍋みたいな物を作って提供したみたいな、こんなところから始まるんですよ。ただ、たれ付けて焼きシャコ作ってそして集まるみたいな。小川原さんがおっしゃって下りましたが、この少しドンくさい物がひょっとして良いんじゃないか、あまり気取らないで後志の良さを開発したら良いんじゃないかな？みたいな話を二人でしていました。

今日の私の話は後志ハブ観光 ハブ観光と言う名前を使っていますが、これはあとで説明しますけれども大学の先生 吉岡先生と言う方の事をそのまま頂いて後志の広域観光を赤間の言葉で喋らせてもらいたい。ハブ観光の解説の時間ではないという事を予め申し上げておきたいなと言うふうに思います。

お手元にあります資料に沿って説明したいとおもいます。気楽に聞いてください。漫談風にいきますので。

まず、観光の流れが変わったというのは現場にいる皆さんの方がよっぽど詳しいのではないかと思います。ちょっと小樽に傾斜して喋らせてもらいますとね、いくつか例を言いましょ。バスがどんどん来て浅草橋というのですが、運河の所で写真を取るみたいな小樽の観光の定番でしたよね？もの凄く減っています。去年、私どもの運河プラザと浅草橋運河沿い両方に案内所がありますが、そこを何人が利用したかを調べましたら浅草橋が 11%程減っています。一年間で それでプラザは 3.7%位しか減ってないのです。つまり運河の所はウンと減っているという事。結局はバス団体で、あそこにドーンと着いて、さあ〜どうぞという観光がミルミル減ってきている。前の年も減っている、更にその前の年も減っている。そして減っていながらも、いっぱいになっている私どもの案内所で外国人

が何%いるか調べたことがあります。二年前だったですけども何語喋っているか実は分らないんですよ。私どもの案内所、ただし日本語じゃないのは分るだろうと言う事で正の字で付けてごらんよと。そしたら丁度 50%位が外国人。何を言いたいかというと周遊型観光、バスでどっさりという観光はもう、外国人のツアーしかない。その外国人が金融不況で落ち込んでいるわけですから、韓国五割減、台湾三割減くらいになっているのではないのでしょうか？正確じゃなかったらお詫びします。

「また、運河とガラスかい？」そんな中でバスから降りて来ないという現象がおきてきました。小樽運河、とっても悩ましいんですけども「また、運河とガラスかい、前見たからいいわ」で何を言いたいかというとマスツーリズムというか、バス旅行、本当に終わりを告げているんだと体で実感しています。10年くらい前に遡って思い出しますとバスの駐車場が北一ガラスさんの向かいにあって、それが溢れて、運河のそばにバスが並び、私の運河プラザの前まで並びましたよ。止められないから。そうすると運河プラザの前で止まったバスの乗客、観光客が運河プラザで買い物をする。一年間4億売っていたんです。今7千万。私の腕が悪いという人もいますがその通りでございます。そうじゃなく本当にお客様が減ってきている。こんな感じであります。

一方でドライブ観光と言いますか皆さん実感なさっていると思いますけれども、この前シルバーウィークですか？物凄い渋滞でした。高速から降りて、後志の奥に入る道路、その道路、臨港線の所、ずっと渋滞していました。小樽過ぎてどこ行くんだらうね？と言っていました。例えば倶知安周辺、ニセコ周辺、このエリアに来ているのではないかと考えております。

グループだったりカップルだったり一人だったり、こういうパーソナルな旅行が主流になってきている。そうすると、人気のあるプランが変わってくるんですね。雪あかりの道ありますでしょ。バックヤードツアーっていうのをやってみたんです。半信半疑、5時から火をつけて歩くんですけども3時に集まって雪あかりの道のいろんな雪の物、キャンドルだとか作っているところを裏から見せる。海外ボランティアの人たちがどんなに甲斐甲斐しく働いているかご覧にいれると、そんな中で小樽の歴史を少し語りながら観光案内人の人たちはボランティアで集団を引っ張ってきた。10人1日2回で計画していたのですが、30人、40人、50人みたいなことになってしましまして嬉しい悲鳴と申しますかね。

で、お祭りを裏から見ませんか？と言うことに人気があるということは、世の中変わってきたぞと思っています。それから、JRが「小樽の自然を歩く」もやったんです。40人募集だったかな？それが、200人くらい来たのかな？パンクしたんです。小樽の自然を歩く、ですよ！何の変哲もないのですが、それだけで札幌の道央圏のお客様がドーンとやって来た。それから、ホテルの人たちが面白い企画がないかと集まってやった中に、鉄道マニアを呼んでみるかと。それで総合博物館とかにある古い車両だとかありますでしょ。静（しずか）観光だとか見ていただいて、小樽駅長を引っ張り出しまして、鉄道の歴

史を語れと。これを聞きに来た人がすっかりハマりまして何度も来るんですよ。そんなにたくさん集まらなかったんですけども、来た人たちはリピーターになって今でも来ていると聞きました。これも、パーソナルな関心ですよ。

今度、またやるんですけども「群来(くき)蕎麦」説明というか、小樽の忍路で農家さんが去年から蕎麦を作りだしたんです。今年は天気が悪く10キロしか作れなかったのですが、小樽産の蕎麦粉で蕎麦を作るでしょ。鯀、このごろ取れるんですよ。鯀を甘しょっぱく、甘露煮風にして。それを入れると鯀蕎麦ってあるでしょ、そこに粘り芋(ジュネンジョの類)をトロロ芋のように入れると丁度、海が群来って白くなるような「群来蕎麦」勝手に名前を付けたのですが、面白いでしょ！100%小樽産ですよ。そして、鯀文化でしょ！日本海沿岸でいっぱい取れなかったら、いくら高く売ってもいいから、この時期だけは「群来蕎麦」が食べられますと。ニシン街道どこに行っても食べられますと小樽に来てください。藪半でもやっています。こんな動きがありまして、これも面白い人がいれば、声を掛けたらあつと言う間に50人札幌からもたくさん来ました。つまり面白い事を探しているんですね、さっきのシャコモそうじゃないでしょうかね？面白そうだしシャコかい、あれタコ祭りやったらきっと駄目だったのではないか、シャコ祭りだったから良かったのではないかと思っているのですが、そんな中で、非常に個別化している旅行の中、ドライブ観光でやってくるこういうことですね。個別ですからマイカーやレンタカーだったりしますね。これからのキーワードとしてドライブ観光をマークしておかないと駄目だなと私は思っています。

次に滞在時間の減少という話をしたいと思います。私どもの観光案内所で増えた質問は2時間でどこ見られますか？2時間しか滞在していない。札幌に泊まるんですから。悔しい事に小樽には一晩、三千人くらいしか泊れませんから、宿泊滞在型と我が支庁は言っているのですが嘘なんですよ。半分以上は札幌圏から来ているんですから、そういう人たちは車でやってきますよね？

バス観光でいうと、2時間だと朝9時2時間後は11時なっていますよね。そこから旭川に向かう。そうすると、バスの中でお昼食べる。お寿司屋さんに入ってくれないんですよ。恥ずかしい話、お寿司屋さんが夜逃げ、今年店を閉めた所、僕が知っているところで2件この前、先週1件つぶれました。そういう状況に今、小樽がなっている危機感を持っております。で、2時間何処に居るかという写真撮るでしょ。北一ガラス見るでしょ、ルタオでお菓子買うでしょ、そしてオルゴール見たらピタッと時間になる。帰って行ってお弁当何処で食べるかという、札幌もしくは旅行会社が用意した物を食べるとか。そこから旭川に向かう。旭川に儲かるでしょって言ったら、とんでもない動物園見たらすぐに居なくなると言っていました。少ししか居ない、お金を使わないということをいみましょう。入館者は減っていないんです運河プラザは、ところが売上は落ちている。恥ずかしい話、前年比88%。義理で買うお土産なんかはあるんですけども。今では中で寛げるように喫茶室があるんですけど喫茶部が潤わない。お客さんが来ているのに売上は去年より下

がっている。お金の使わなくなってきたということでもあります。

この滞在時間の減少というのが一番問題でして、時間消費型観光にちゃんとシフトしなきゃと今、小樽観光関係者の合言葉になっております。時間消費型観光、皆さんの所も同じじゃないですかね？小樽のがわから申し上げると申し訳ないのですが、本当に小樽がもっともっと、より良い観光都市になるには後志広域との連携が必要だと考えております。

その次に東アジア圏の話が北海道で注目と書いていますけど本当にそうですね。物凄い人気ですね。この前、中国の瀋陽から旅行会社が来まして札幌に構えました。こっちから連れていくだけではなく連れてくる。そういう方から話を聞きましたら、中国のお金持ちはお金を使いたくてしょうがない。どこか良いとこないですか？と探して歩く、ところが良いものっていうのがあんまりないんですって。

台湾領事館、札幌に12月1日オープン。本格的にインドア、アウトドアとそれらのお手伝いもすると、早速、花束を持ってゴマすりに行かなくてはと思っております。間違いなく香港、台湾、シンガポールですね。それから韓国、中国本土上陸で、中国銀デニカードを小樽で撒こうと思っているんです。皆さんの所もあった方がいいですね。現金の持ち出しの制限があるみたいですから。それを越えたものはいわゆる銀行ポストですよ。銀行のカードを持っていれば、そこから引き落とししてくれるデビットカードなんですけれども、それが普及されている。同じように台湾の人が来たら台湾の銀行カードをそのまま使えるようにしようということで小樽で説明会しました。そうすると台湾の人も中国本土の人もそのカードを持ってくれば落とせるということですから。宣伝もしてくれる。そしてレンタル出来る(1,050円)これを小樽で普及させてやろうかな？と考えております。必ず来る東アジアのブーム中で長い目で見ると中国本土がマークなんでないでしょうか？今年の7月でしたっけ？初めて個人旅行が許された。限定つきですけども、そうすると、いよいよ始まるのではないかと。まだそんなに実感はないですがそれでも、銀デニカードが使われ始めていますから始まったな〜という感じがします。

観光の流れが変わったと言う事を乱暴に3つに分けて、次の広域観光についての考えに生かさせていただこうかなと。広域観光というのは国の言葉でいわせると、広域観光圏というのは、何県と何県が跨るといふか、都道府県が跨るスケールの事を広域観光といて、私どもみたく後志で纏ろうぜと云うのは地域観光圏というらしいんですけども。

ま〜ここでは広いから広域観光が良いのではないかと、一言でいうと各地域が持っている観光資源をネットワークして売っていかうじゃないかと、北海道各地域が持っている観光資源をネットワークして売り込もうじゃないかという観光でございます。自分のとこだけなら力を出せないけど、一緒になればあると思うんです。人口減進んでますでしょ？小樽なんかは今13万5千人ですよ。35年後には8万人になるのではないかと云われていますが、その中で人口減そのものを食い止めるというのは大事なのですが、交流人口を増やしていけば落ちるお金はカバーできる、交流人口というのは例えば、訪れる人間が、例えば

工事をやっている。たくさんの人たちが働けばその人の昼飯代は小樽で使って頂ける。観光客までが交流人口ですよ。そういう考え方から言うと、人が住んでなくても沢山そこを通れば、あるいは訪れてくれれば、地域の活性化に繋がるんじゃないか、そういう考えで行こうじゃないか。

何を言いたいかという観光って大事よねって事です。今後は外国人も大切ですけど手っ取り早い話をすると後志のお客さん、道央圏から来てもらう事が一番ではないかということです。小樽の観光客 100 人来ているとしましょうか。53%が道央圏なんです。7 割が北海道人、道外外国人合わせても 3 割しか居ない。そうするとそれが果たして観光客なのかって話になるんですよ。東京のおしゃれな人が月に一度横浜を歩くみたいな。でも段々なくなってきている。大体小樽のことわかってきたから。困っている我々ももっと新しい事、市民だけが知っている秘密のお店だとか、新しいメニューの開発だとか、もっと大きくは拠点開発だとか含め、大きなテーマパークだと思っているんです。観光圏、官公庁、小樽は一つの屋根のない博物館と気取ったことを言った人がいましたけど、この屋根のない博物館と言うのは開発が終わって動きが止まった、とたんにお客さん来なくなると思うんです。運河は運河で 20 年飯食ってきたのですが、また運河とガラスかい？って言われているんですよ、そういう文脈の中で常に何をするかという課題を抱えているわけです。

道内客のリポーター数は高く 93.6 あります。初めて来た人はいないという、これは凄いことだと思うんです。リピーターは次に行く理由がなければ来ないということ、単独で仕掛けるには限界があるという事です。393 出来ましたよね。今日で 1 年目になりますが「メイプル街道 393」と名前を付けたんです。名前付けるときの協議会の親分が今日そこに居られる小川原さん。私は赤井川がメイプル街道と付けることを反対したのですが、最後に分かったと、「メイプル街道」でいきましょうと決まったんですが、その後すぐに集まりまして、倶知安の協会と、私ども小樽観光協会と、赤井川観光協会とでホテルの庭先でやったんですね。縁日みたいなことを。沢山車止められますから。

10 月の 10 日にやったんですけども、物凄い雪で、僕、夏タイヤで行っちゃったんですよ。今度そのあと、濠雪なんですよ。辞めようと言った赤井川の協会長に、やろうと言ったのが倶知安の観光長で、結局やっちゃったんですが。そこで人気があったのが 393 街道鍋って物を作ったの。倶知安の芋、小樽の水産物海産物、赤井川の豚、ちゃんこ鍋風のもので出来たんですが、一杯 100 円で販売したら売れまして、何故か自分家で作ったパンを売っている人もいました。バザーみたいな感じになっていました。面白くてね、それをいっぺんにやったのですが、それがイベントです。今、何をやっているかと言いますと開発局に申請中なんですけどメイプル イタヤ楓 カナダのメイプルはサトウ楓、同じ楓なんだけれどもチョッと違う。でも英語で言うとイタヤ楓と同じ。メイプルもイタヤ楓から取れると聞きました。昔はイタヤ楓でスキーを作ったんです。そういうケースから壁掛けなんかを作っても非常に適した物ですし、商品開発出来るよねと夢は膨らむんです。そして 3 市町

村で一生懸命やったあとに後志支庁、それぞれの市町村にもお手伝い頂いて、100万ほど補助を頂いて。他の観光協会で手を結ぶと面白いことが出来るぞという事が分った。広域観光のメリットがここにもあるね、ということですけど。最初はそれぞれの観光資源は点だと思うんですけども、点を線にしていく、線を面にしていく、作業だと思っております。各地共同PR、一緒にPRすればPRコストは減りますよ。割り勘ですから。広域で連携しますといったら、キーワード広域連携という我々はこれに悪乗りして色んなことをするべきじゃないかと思っています。

ハブ観光についてなんですが、先ほどもお話しましたが札幌国際大学に観光学部というのがありまして準教授の吉岡博隆先生がいらっしゃる。これは偶々、道央圏で札幌中心として色んな所に行って個別に答えてもらう事は出来ないだろうかと言う提案で今でも続いています。例えば小樽の関係で言いますと、札幌に泊まった人を想定しておいてJRの話、幌内観光の所まで結び付けよじゃないかと。石炭から始まり鉄道、そういう繋がりをみつけてマニアを呼び込む。これを一度やってみようかと、これが一つ。

あと二つあるのですが、このような事を先生が提案してくれてハブ観光という言葉を始め使った。能書きは言いません。簡単に言いますけれども1ないし2ヶ所に滞在し、そこを拠点にして周囲の町へと足を伸ばして貰う観光のスタイルを、自転車のハブからスポークが伸びている姿に例えて「ハブ観光」と名づけ、滞在拠点となる町を「ハブ」日帰り足を伸ばす周囲のことを「サテライト」と呼びます。後志の中でハブを作れると思っています。小樽のハブ都市、一つはね。北後志を中心に後志全域をカバーするという考え方も一つ。それから、ニセコを中心としてそこからハブを延ばしていく。こういうイメージで全体をカバーできるハブ。私が勝手に皆様に訴えに今日は来ました。さっき言った観光のパーソナル化に合わせて観光客の個別のテーマに個別に答える。鉄道マニアにとっては、他の人が見向きもしないが追っかけてくる。カメラ何台もぶら下げて。色んな人いるんです。

今までは周遊型観光。小樽にきたら次の日は何処かに行く世界なんです。ニセコは平均一週間～二週間、外国人宿泊者がいる。倶知安の町にどうやって下りてきてもらうか。例え話しますよ、一日で廻ってこられる範囲を作る。観光客の個別のテーマに（関心・趣味）着地型の情報発信をし、脱周遊型観光を目指す。従来の観光・ハブ観光 周遊型から滞在型へ。

イニシアティブというのは、東京のお客さんが東京のJTBにお金を払う感じだったのが着地しながら自分で回りながらお金を落として歩く。不特定多数から具体的な個人客をイメージ、行動スタイル宿泊地を変えながら広く有名観光地を見て廻る。ハブは拠点に連泊しながら関心や趣味に訪問先をチョイスする別のターゲットを発掘しましょう。リポーターやファンを獲得、お仲間を連れてきてもらう。極めていきな世界ではあります。一つ一つのマーケットと言うのは非常に小さいと思います。が、しかし、そういう事が好きな人があるわけですね。関心あるものをワンセットにする。と、それは一つのビジネスモデ

ルと成立する可能性があるよとこういう事が先生の言っている事だと。

後志というのは物凄く資源があると思うのです。ニシンの歴史と文化遺産というのは凄い物がありましてね。松前からニシンが取れ出して、それが段々、北に上がっていくんですね、時代と共に。江戸時代、松前だったのが大正、昭和になって積丹から留萌の方に段々上がっていく。そうすると、それで儲けていた業者の人達がニシンを追いかけ北上するのです。「追いニシン」と言うそうです。そんな中でニシン街道を今作ろうとしているんです。一つの大きな文化圏 ニシン文化圏があるのではないかと。そうすると、建物。博打みたいな物と言いますが、ドーンと取れて出来たモノが鯨御殿でしょ。それは他の海産物じゃ在り得ない事なんですね。そういう博打みたいな漁業というのは、ニシンとマグロぐらいしか無いといえます。2ヶ月、1頭も取れない人がいれば、2日間で3頭も取った人もいれば、それが何百万だとしたら、何かにとりつかれたみたいに今日も漁に出て行くみたいな、ニシンはそういう事あるらしくて。この前、漁協のヤエズに行っただけです。色んなことやっているでしょ？ウニ作ったりですとか、アワビもやっています。獲れて興奮するのは漁師さん。腹くそ悪くてね（笑）でも、そういうのがニシン街道だと思っています。そういう地を我々は持っているのだと。そんなニシンを面白がってくれる人にどう説明していくか？どう案内していくか？どう考えていくか。こういうこと一つがハブ観光の狙いになってくるのではないかと。で、果樹園があるでしょ。積丹半島、綺麗でしょ。海の幸、山の幸あるじゃないですか。温泉もあるでしょ、温泉めぐりだって成立するでしょ。それから文学散歩みたいなものの延長に後志を歩いたって面白いんですよ。海、山、川、各種アクティビティ、色んな遊びがあるでしょ。只、ボートこぎもありますよ、シーカヤックも有りますよ。操縦免許を取って帰るといってもあるんですよ。何でも出来ちゃう。農業体験、漁業体験 スキー場もあって羊蹄の湧き水もあって、こんな中で僕は大きくくりで話しましたが、もっともっと細かく入っていかないと駄目だと。

例えば、洞窟マニアがいたとします。ストーンサークル好きな人は洞窟も好きですよ。ストーンサークル見ながらフゴッペの洞窟見て、手宮の洞窟見て、フラクの洞窟見て岩内ね。おまけに海の中入ったら青の洞窟、知らないでしょ？物凄い綺麗なんです。そういうふうに行く、これはSTSの今井さんの言葉なんですけども、後志ならではが沢山あるんじゃないですか？と言うんですね。例えば魚場に昔、場所請負人みたいな人がいたよ。それは、お上が自分でやらないで誰かを使った。その土地の有力者っぽい人。そして、アイヌの人達を使ってニシンを獲った。そこで騙されたアイヌの人もいれば、歴史の記念碑みたいな物もあったんじゃないか、色んな伝説があって、黄泉の国と繋がる洞窟話みたいなものもあって、神恵内のアイヌの処刑所もあるわよと。そういうのを採取して歩く人もいます。歴史の影の部分も一つの魅力ではないかと。

歴史の光と影を廻って歩くのも良いのではないかと、なんでもいいんです。個別の関心でその人が面白ければ。我々からすると、逆にこんな面白がる人居るだろうか？こんな観光資源になるだろうか、なるんです。こういうモノ好きな人達だけを集めればいいんです。

つまり客を選ぶ観光地になったって良いんですよ。逆説的ですけども皆に来てもらおうと思うからしくじるのです。もうチョッとだけ、いきますよ。さっきの小樽のシャコの話しをしましたでしょ。それから、たちカマってあるでしょ。あれも現地で食べると、とても美味しいし小樽で真似事している人いますけど、やっぱり駄目ですね。で、食べたかったらそこに来いというのが蘭越米、赤井川お漬物食堂あるでしょ。いいですよ。客を引っ張るマグネットになりますね。倶知安に旨い蕎麦屋さん「あんたイチムラ知っているかい？」こんな話にもなりますよ。お食事処留寿都、あそこいいですよ。賀老の滝、まだまだ沢山ありますよ。企業観光みたいなことだってやろうと思えば出来るし、フットパークのスタンプラリーやってもいいだろうし、そのマイナーなことをわざわざ探さなくても何でもいいのです。ニューツーリズム。これはね、国交省の観光立国推進議論計画から僕が勝手に解釈、長期滞在型観光。口で言うほど長期滞在出来ないんですよ。皆、次の日居なくなっちゃう。エコツーリズム自然環境や歴史文化を対象とし、それらを損なうことなく体験し学ぶ観光のありかた。お役所みたいですが例えば、ホエーウオッチング、植林や清掃など環境保全のために実際に貢献をするボランティア的ツアー。小樽の自然でいうと天狗山ってあるでしょ？上のほうに森があるんですよ。詳しい人と一緒に歩くと面白いですよ。今聞いた鳥、なんだか分りますか？生きた生態を学ぶ。あんなに面白いとは思わなかったんですけど、そういう事も立派に観光資源になるのではないですか？と言っているのです。知床なんかはこのエコツーリズムですよ。只、これで儲かる規模にはなっていません。正直行って儲かりませんと言っていました。でも、人間がそういうベクトルで動き出した。それと個別化している。これは満足しなければならない。欲集らなければ商売になると思います。

グリーンツーリズム、農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動、農作業の体験雪撥ねしていたら面白がって寄ってくる人居ますよ。チョッとやらせて下さいって言って。そういう風に、農村と農業体験、漁業体験なんかも出来ないかな？と思うんです。漁業はクリアしなければならない部分はあると思いますが。食育なんかも今小樽でやっていて、産業クラフターの集まりがありましてね。花粉症に良く効く食べ物を勉強していて、それを実際にシェフが作りまして、これ売れないかと。簡単な話、スギ花粉症ってあるでしょ。小樽の話で恐縮なのですが、皆さんも所でも同じだと思いますけどスギの木が一本も無いそれだけで来る。花粉症の人は物凄く辛いんだから。そこに来て、花粉症に強くなる体を作る食べ物を食べさせたとします。そしたら、その人達来ますよ。で、花粉症の人って結構居るんです。例えばそういう風に、面白がって仲間と喋っている間に出来ていくのが、このハブ観光ではないかな？と思っています。

歴史、伝統 道具をどうやって生かすか。知的欲求これはキーワードなんですよ。テレビあまり見なくなってきた。おバカ芸人みたいな一杯出てきているけど若い人が見なくなっている。見ているのは小母ちゃんと小父ちゃん、ビール飲んで見ている。若い人は皆インターネットだったり掲示板だったり、そういう世界になっていますから。知的と

いうのはキーワードになってくる。産業観光、これだってあるんですよ。この前団体の人達なんですけど、長靴を作る工場を見せてくれないかと言う人来ましたよ。工場見学ってものも立派な観光ニューツーリズムの中にそれが入っているんですよ。小樽でいいますと、世界初凍らない水、凍らない水道水を作っている所がありましてね。ここを見に来る方も居ましてね、これだけで観光なってくるんです。もの凄く、よその歴史っていうのに興味深く聞いている方がこの前、おりました。

ヘルツーリズム、これね、小樽でやりたいな？と。早い者勝ちなんですけども、さっきのフットパスとか温泉療法ですとか、寛ぎ、ゆとり、など。それがヘルスとかみ合うんですね。元気になって、健康増進、医療に近いモノからこれをワンパックにして出来るなと、こんなことを考えています。その他のニューツーリズムとして、フラワーツーリズム、フィルムツーリズムこれも大きいですよ。今までに無い新しい個別のニーズを捕らえたものだと大体間違いないのかな？と皆さん可能性は感じるのではないかと、じゃ～具体的に明日からどうするの？これがなかなか出来ない。普通は偉い人が引っ張っていく皆でやりましょう！となるんですけど、これは、若い子同士で、仲間同士で繋がって。内はこういう面白い、例えば、昔ながらの魚風を作っているところまだいらっしゃる。その話を聞きたいって方、居ると思うんですよ。個別に繋がっていけばいいです。ただし、一つだけ僕が思うに生活支援が入り口のところに絶対必要ではないか？マーケットちっちゃい。儲からない、多分しくじると思います。でも、時代の矢印はそっちに向いているんですよ。把握ツール、みんなが集まるときの最初の経費だとか、そういう資金を国や、道の方から手に入れてほしい。例えばこのメンバー皆さん、現場知っているわけじゃないですか、この面子でチームに分けてズーとやっていくと面白いと思うんですよ。面白いときは何でもうまくいく。僕の経験では。面白くないときって逃げ出したくなるでしょ？そんな風に面白ながらやっていくと出てくるんじゃないかな？と。皆さんと一緒にこんなことをやって行くという事をお約束して、僕の話は終わりにしたいと思います。皆さん有難うございました。